

## 「サンゴの村宣言」 恩納村の未来を考える 海洋学習～海と共に生きる～

11月17日、うんな中1年生（106名）が「総合的な学習の時間」において、海域と陸域を繋げた環境保全フィールドワークを行いました。事前にOISTガーデニングクラブの皆さんから「循環型農業・コンポストを利用した土づくり」について学んだうえ、午前にはコンポストでのシンカレタス栽培実験のほか、ベチバー植付け・赤土対策養蜂見学・蜜源緑肥播種を体験しました。赤土対策において養蜂を普及させていることや、蜜源緑肥をデザインほ場にしたことなどについて農林水産課の説明を理解し、先生と生徒で四苦八苦しながらも、楽しく



く花の種まき作業をしました。

午後は恩納村漁協の協力で、サンゴ苗作り体験とサンゴ乗船観察を行いました。初めは小さかった苗が時間をかけ、海中で逞しく成長している様子に皆感動した様子でした。一日かけたフィールドワークは、陸と海、両方の環境保全の取組みが繋がっているからこそ、「世界一サンゴにやさしい村」を実感できる体験となり、「SDGs未来都市」恩納村ならではの学習となりました。



### 《感想：うんな中学校1学年主任 平川直樹》

多くの方々のご理解ご協力によって、今回の海洋学習を実施することができました。初めは「なぜ大人ではなく中学生がサンゴや村の将来について考えるのか」という声も聞こえていましたが、OIST・GODAC・農林水産課・恩納村漁協より、海の現状や村が今後取り組まなければならない課題などの学習を深めていくうち、「私たちができることは何?」「私も村のサンゴを守りたい」という意識が芽生えてきました。

ベチバー植付けでは「どうしたら赤土が流出しないか」試行錯誤して作業を行いました。また、サンゴ苗作りでは「サンゴが大きく育つように」というメッセージを台座に書き込んだり、海流に負けないよう苗をしっかりと固定したりする生徒もいました。

さらに、乗船観察では「サンゴが無いところには魚がいない!」という発見もありました。

今回は、黑板や映像では決して伝えられない「恩納村の未来」を考える素晴らしい体験学習になりました。関係者の皆様にお礼を述べさせていただきます。中学生も恩納村の未来を真剣に考え始めました。これからもうんな中学校を応援していただきたいと思います。ありがとうございました。



## 学校支援ボランティア活動報告【稲作プロジェクト】

安富祖小学校では、3年生から6年生までの児童（45名）がお米作りにチャレンジしています。9月に始まったこの稲作プロジェクトでは當山幸宏さん（安富祖区）指導のもと、これまで苗作りから田植えまでを体験することができました。稲は現在、安富祖区内の田んぼで元気に育っているところです。今後も當山さんのサポートをいただきながら、12月末の収穫を目指して、管理や観察を続けていきます。



**学校支援ボランティア大募集中！** あなたも参加してみませんか！  
**できるひとが、できるときに、できることを**

恩納村学校支援協働本部（社会教育課内）  
☎966-1210（瀬良垣・安永）